

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大和物語 ～姨捨(山の月)～」問題

信濃の国に更級と^①いふ所に、男^②住みアケリ。若き時に親^③死にイケレば、をばなむ親の^{ウジ}とくに、

若くより^④添ひて^⑤あるに、この妻の心、憂きこと多くて、この姑の、^⑥老いかがまりて^⑦ゐたるを常に

⑧憎みつつ、男にもこのをばの御心のさがなく悪しきことを^⑨言ひ聞かせオければ、昔の^カごとくにも^⑩あらキズ、

おろかなること多く、このをばのために^⑪なりゆき^クけり。このをば、いといたう^⑫老いて、二重にて^⑬ゐたり。

これをなほ、この嫁、^⑭ところせがりて、今まで^⑮死な^コぬことと^⑯思ひて、よからサ^ヌことを^⑰言ひつつ、

「^⑯もて^⑯いまして、深き山に^⑲捨て^⑳給びシてよ。」とのみ^㉑責めスければ、^㉒責めセられ^㉓わびて、

さ^㉔しソ^タムと^㉖思ひなりチぬ。

月のいと明かき夜、「嫗ども、いざ^㉗給へ。寺に尊きわざ^㉘す^ツなる、^㉙見せ^㉚奉ら^テむ。」と^㉛言ひトければ、

限りなく^㉟喜びて^㉞負は^ナれ^ニに^ヌけり。高き山のふもとに^㉞住み^ネければ、その山にはるばると^㉞入りて、高き山の

峰の、^㉞下り来^ノべくも^㉞あら^ハぬに、^㉞置きて^㉞逃げて^㉞来^ヒぬ。「やや。」と^㉞言へど、いらへも^㉞せで、

㉞逃げて家に^㉞来て^㉞思ひ^㉞をるに、^㉞言ひ^㉞腹立^フける折は、^㉞腹立ちてかく^㉞し^ヘつれど、年ごろ親の^ごと

㉞養ひつつ^㉞あひ添ひ^ホに^マければ、いと悲しく^㉞おぼえ^ミけり。この山の上より、月もいと限りなく

明かく^㉞出で^ムたるを^㉞ながめて、夜一夜、寝も^モう^モざ、悲しう^モおぼえ^ヤければ、

かく^モ詠み^ユたりヨ^ケる。

わが心⁵⁹ なぐさめかねつ更級や姨捨山に⁶⁰ 照る月を⁶¹ 見て

と⁶²詠みてなむ、また⁶³行きて⁶⁴迎へ⁶⁵持て來^ラにりける。それよりのちなむ、姨捨山と⁶⁶言ひルける。

なぐさめがたしとは、これが由になむ⁶⁸ありレける。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「大和物語」『姨捨(山の月)』 解答

ハ四回 マ四回 過去

マ四回 過去

ナ変回 過去

比況

信濃の国に更級と^①いふ所に、男^②住みアケリ。若き時に親^③死にイケれば、をばなむ親のウ^④とくに、若くより^④添ひて^⑤あるに、この妻の心、憂きこと多くて、この姑の、^⑥老いかがまりて^⑦ゐたるを常に

ハ四回 ラ変回

ラ変回

ワ上一回

存続

打消

⑧憎みつつ、男にもこのをばの御心のさがなく悪しきことを^⑨言ひ聞かせオければ、昔のカごとくにも^⑩あらきず、おろかなること多く、このをばのために^⑪なりゆき^⑫ケリ。このをば、いといたう^⑫老いて、二重にて^⑬あケたり。

マ四回

サ下二回

過去

比況

打消

おろかなること多く、このをばのためになりゆき^⑫ケリ。このをば、いといたう^⑫老いて、二重にて^⑬あケたり。

カ四回 マ四回 完了

カ四回 過去

ヤ上二回

ワ上一回

存続

打消

これをなほ、この嫁、^⑭ところせがりて、今まで^⑮死な^⑯ぬことと^⑯思ひて、よからサぬことを^⑰言ひつつ、

タ四回 サ四回 完了

マ下二回

過去

マ下二回

受身

バ上二回

打消

打消

「^⑯もて^⑯いまして、深き山に^⑲捨て^⑳給び^㉑シてよ。」とのみ^㉒責め^㉓スければ、^㉔責め^㉕セられ^㉖わびて、

タ四回 サ四回 完了

マ下二回

過去

マ下二回

受身

バ上二回

打消

打消

さ^㉗し^㉘ソ^㉙タ^㉚ム^㉛ト^㉜思^㉝ひ^㉞ナ^㉟リ^㉟チ^㉟ぬ。

サ変回 強意
意志

ラ四回 完了

タ下二回 ハ四回 完了

マ下二回

過去

マ下二回

受身

バ上二回

打消

打消

月のいと明かき夜、「嫗ども、いざ^㉗給^㉘ヘ。寺に尊きわざ^㉙す^㉚なる、^㉛見せ^㉜奉ら^㉝テ^㉞む。」と^㉟言ひ^㉟ト^㉟ければ、

バ四回 ハ四回 受身 完了 過去

マ四回 過去

ラ四回

過去

マ下二回

意志

打消

打消

限りなく^㉗喜びて^㉘負は^㉙ナ^㉚れ^㉛ニ^㉝ヌ^㉞ケ^㉟リ。高き山のふもとに^㉟住み^㉟ネ^㉟ければ、その山にはるばると^㉟入りて、高き山の

峰の、^㉗下り来^㉘ノベ^㉙くも^㉚あら^㉛ぬに、^㉝置^㉞きて^㉟逃^㉟げ^㉟て^㉟來^㉟ヒ^㉟ぬ。「やや。」と^㉟言^㉟へ^㉟ど、いらへも^㉟せ^㉟で、

ガ下二回 カ変回 ハ四回 ラ変回 完了

タ下二回

過去

タ下二回

意志

打消

打消

④逃げて家に^㉗来て^㉘思ひ^㉙をるに、^㉚言ひ^㉛腹立^㉝て^㉞ける折は、^㉟腹立ちてかく^㉟し^㉟つれど、年ごろ親の^㉟と

ハ四回 ハ四回 完了 過去

タ下二回

過去

タ下二回

意志

打消

打消

51 養ひつつ^㉗あひ添ひ^㉘ホ^㉙に^㉚け^㉛れば、いと悲しく^㉝おぼえ^㉞ケ^㉟リ。この山の上より、月もいと限りなく

ハ四回 ハ四回 存続 完了 過去

マ上二回

過去

ナ下二回

可能

打消

打消

明かく^㉗出で^㉘ム^㉙たるを^㉚ながめて、夜一夜、寝も^㉝寝^㉞られ^㉟モ^㉟、悲しう^㉝おぼえ^㉞ヤ^㉟ければ、

マ四回 完了 過去

かく⁵⁸詠み^ユたり^ヨける。

ナ下二用

ラ四用

マ上一用

わが心⁵⁹なぐさめかねつ更級や姨捨山に⁶⁰照る月を⁶¹見て

と⁶²詠みてなむ、また⁶³行きて⁶⁴迎へ⁶⁵持て來ラ⁶⁶にリける。それよりのちなむ、姨捨山と⁶⁶言ひル⁶⁷ける。

マ下二用

カ四用

ハ下用

カ変用

ラ变用

過去

ハ四用

過去

なぐさめがたしとは、これが由になむ⁶⁸ありレける。